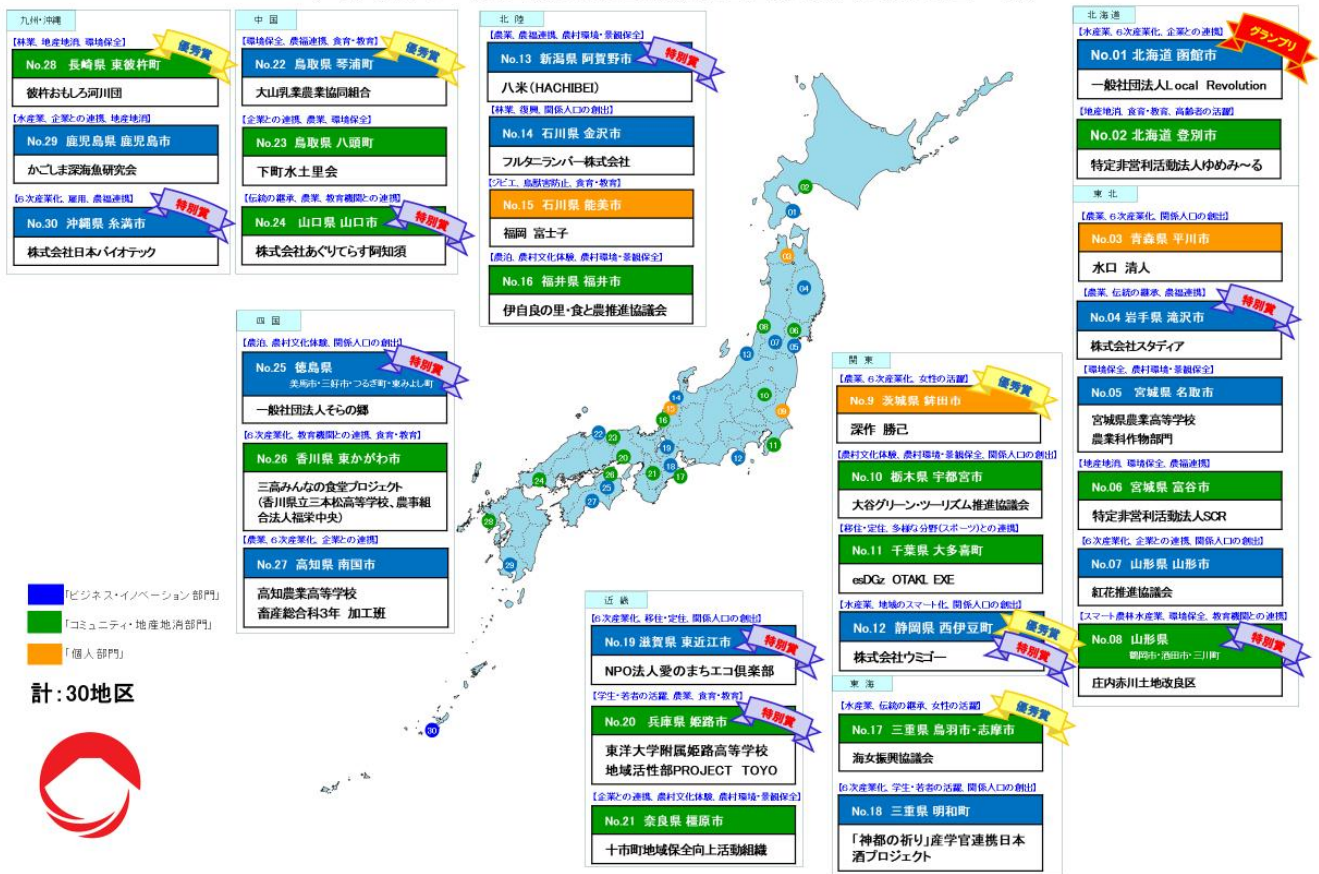


「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」

第12回選定の結果

令和7年11月18日（火曜日）に開催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第12回選定）有識者懇談会において、地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例30地区を選定し、このうち特に優秀な事例については、グランプリ、優秀賞及び特別賞として決定しました。

むら
「ディスカバー農山漁村の宝」(第12回選定)選定地区一覧



過年度の審査結果や事例集等については、以下のサイトで公表しています。

☆「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」特設ホームページ
 URL : <https://www.discovermuranotakara.com/>

☆農林水産省ホームページ「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」
 URL : <https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>

宮城県 名取市

1

宮城県農業高等学校 農業科 作物部門

失敗から生まれた肥料革命～高校生が変えた農業の常識

農業

環境保全

農村環境・景観保全



新肥料を新装備を使用して田植え



左：新肥料使用 左：普通栽培



新肥料を肥料会社と共同開発。特許申請中



概要

- ◆ある実習で、偶然、肥料を与えずに田植えをしてしまった水田において、なぜか苗の生育が予想以上に良好だったことから、肥料価格高騰と環境負荷の課題を解決する研究を開始。
- ◆世界初の深層施肥対応の肥料「Re：温故知新」を開発。田植え時に肥料を10cm下へ集中施肥することで、発根促進と肥料効率向上を両立し、施肥量を3分の1に削減しながら収量・品質を維持。加えて、水質汚染やマイクロプラスチック問題も軽減。企業・大学・地域農家と連携し、特許出願や商品化、全国普及を目指す。

取組の効果

- ◆ブドウ栽培の「栄養周期理論」を参考にし、ICTを活用した詳細な生育データの収集と施肥分析を行い、その結果を基に、令和5年、肥料メーカーと連携して環境負荷の少ない新しい側条施肥型肥料を共同開発。
- ◆この肥料は、地球環境への悪影響を与える水質汚染や一酸化二窒素の排出などを大幅に抑える。さらに深層施肥技術と組み合わせることで、肥料費を78.2%、労務費を62.1%削減しつつ、収量や品質は維持。食味値は専門機器で高い数値を記録し、「お米甲子園」全国優秀賞を受賞。

岩手県 滝沢市

2 株式会社スタディア

馬×農×福祉で地域の未来を耕す！

農業

伝統の継承

農福連携



障がい者による馬耕の実施



障がい者と職員による稲刈りの様子



障がい者とのチャグチャグ馬コへの参加

青森

秋田

★岩手

山形

宮城

福島

概要

- ◆高齢化による農業の担い手不足や、伝統行事「チャグチャグ馬コ」の出馬頭数減少など、地域の持続性にかかわる深刻な課題が顕在化。長年障がい福祉に携わってきたことから、障がい者の力を活かし、農と伝統文化を同時に支える“共生型地域モデル”を構築。
- ◆平成30年から、チャグチャグ馬コに使用される馬の飼育も開始。令和2年より、耕作水田の一部を活用して、障がい者とともに馬耕の実施や、その堆肥を使ったブランド米を生産し、米の付加価値を高めて販売。令和7年からは、行政のふるさと納税やクラウドファンディングの返礼品にも登録、売上の一部は馬の維持に還元。

取組の効果

- ◆平成30年から、農地の維持が困難となった地域の水田を借り受け、障がい者の就労支援として耕作開始。依頼面積は年々増加し、現在では、30haを超える水田を管理し、地域農業の維持に貢献。また、将来の担い手の育成として、令和2年から地域の小・中学校および行政と連携し、農業体験も実施。
- ◆障がい者が馬を操り、農地を耕し、伝統文化を守るという独自の取組みは、多数のメディアに取り上げられ、市の農業とチャグチャグ馬コを全国に広くPR。

山形県 山形市

3 紅花推進協議会

1%を守るため、99%を広める — 山形県花・紅花の挑戦 —

6次産業化

企業との連携

関係人口の創出



会員生産法人で生産されている紅花



テスト販売した紅花カレー



泡まで黄色い2種類の紅花クラフトビール

青森

秋田

岩手

山形

宮城

福島

概要

- ◆日本農業遺産・日本遺産に認定された山形県花「最上紅花」は、かつて文化と経済を支えたが、需要減少と生産者の高齢化で生産量は180tから130kgへ激減。そんな中、大手旅行業者から観光商品化の打診を受けたが、産業化は進まず通年利用は困難だった。
- ◆紅花副産物の黄色素を活用し、地域内外の飲食店や加工業者と連携して商品開発や販路拡大、情報発信を進め、経済価値と持続可能産業化を図る。

取組の効果

- ◆染色用赤色素抽出過程で廃棄されてきた黄色素に着目し、ハーブティーやクラフトビールをはじめ、カレーやスイーツの提供、リゾート試作などを実施し、5件を商品化した。紅花の新たな価値を発信できている。ブルワリー、食品メーカー、飲食店、大学、プロモーション団体などとの連携（令和6年度55件）により、企画段階から販路・ターゲットを明確化し、都市部展開を見据えた開発体制に転換。
- ◆山形市内の飲食店・土産店（道の駅含む）を中心に紅花の利用拡大が進み、観光需要や地域ブランド発信にも寄与。

宮城県 富谷市

4 特定非営利活動法人 SCR

地球環境を守る取組はミツバチとともに

地産地消

 環境保全
 （農林水産業・食品産業）

農福連携



不登校特例校との養蜂活動



みつばちの里の蜜源活動



山のがっこうの林業活動

青森

秋田

岩手

山形

宮城

福島

概要

- ◆ 農業や林業の経験のない、様々な資格や得意分野を持つ女性が集まり、皆の力を合わせたらもっと沢山出来るが増えるとの考えからNPO法人SCRを設立。
- ◆ 森林保全活動で、ミツバチの過ごしやすい環境作りは、自然の再生と地域の環境を守ることに繋がると気づき、ミツバチの生活環境を整えるため市民やトヨタ関連の企業ボランティア等と連携した森林整備、蜜源作り等を行っている。

取組の効果

- ◆ 東北初の不登校特例校「西成田教室」の教員と連携し、学校の授業の中に耕作放棄地を活用した農業体験や養蜂活動を導入。授業を通し当法人メンバーとのコミュニケーションが深まり、生徒の表情が明るく豊かになるなどの変化がみられた。令和5年・6年度の卒業生は全員が高校へ進学することができた。
- ◆ 市内森林公園を拠点とし毎年8月の山の日に「山のがっこう」を開催。伐採見学、枝切体験などの森づくりを継続し、これまでに1,500名以上が参加するイベントとなり地域が活性化。また、養蜂活動を通し、採取した蜂蜜の量は年々増加し、ふるさと納税の返礼品や地元カフェ、JAなどで販売。また、新たに蜂蜜を使用したビールの商品開発を行った。

山形県 鶴岡市、
三川町、酒田市

5 庄内赤川土地改良区

「まもり・つづける・みらいへのこす」

スマート農林水産業

環境保全
(農林水産業・食品産業)

教育機関との連携



地元小学生へ頭首工の説明(水利施設探訪)



地元小学生たちとの植樹活動



国営ICT事業実施地区の現地視察状況



概要

◆先人達が現価値にして数億円を投じ1,300haもの山林を取得し、今も水源涵養林として守り続けている。これらを契機として、庄内平野の水資源や農業水利施設のはたらきを知ってもらうため、施設探訪・農業体験・水生生物調査を実施。

◆また、令和3年度の国営ICTモデル事業により整備された当区管内の湯野沢地区には、県内外から視察の依頼が相次ぎ、これまでに官公庁、土地改良区、地元生産組織など、延べ1,000人を超える方々が訪問され、ICTの特性や導入効果について、来訪者に対し丁寧かつ分かりやすい説明を行っている。

取組の効果

◆地元小学生を対象に頭首工や揚水機場などの農業水利施設探訪を行い、ほ場に水が届くまでの水利施設のはたらきと農業における水の大切さを教え伝えている。また、所有林野内で植樹・間伐の体験を通じて水源涵養林の機能を学ぶ場も提供。その他にも、山林の保全管理を次世代へとつなぐため、GPS測量による所有林野の電子図化を毎年継続して実施。

◆令和3年度完了の国営赤川農業水利事業にて造成した農業用調整池を用いて、地元小学生、施工業者の方々と池に残った生物をタモで直接捕獲し、川へ放流する「お魚引っ越し作戦」をスタート。水生生物とのふれあいを通じた環境教育の場として、町の広報誌に特集掲載されるなど、好評を得ている。

青森県 平川市

6 みずぐち きよと 水口 清人

日本初！瓶にりんごが入ったブランデー

農業

6次産業化

関係人口の創出



瓶の中でりんごを育てている様子



ドイツ人技師による製造技術のトレーニング



りんごが瓶の中に入っているブランデー

青森

秋田

岩手

山形

宮城

福島

概要

◆コロナ禍で打撃を受けた温浴事業から転換し、令和3年に国の補助金を活用して青森県の特産品・りんごを使った果実酒事業を開始。アップルブランデーやシードルの製造販売を通じて地域の農業所得向上と観光振興を目指している。

◆日本初の「瓶の中にりんごが入ったブランデー」を開発し、4年の試験と申請を経て令和7年に販売開始。地元農家と連携し高品質なりんごの仕込みを拡大し、地域資源を活かした高付加価値商品で農業活性化と観光促進に貢献する取り組み。

取組の効果

◆「瓶の中にりんごが入ったブランデー」は、「33,000円」と高額商品であるが、販売開始から1週間で完売。仕込み数は令和7年春に1,000個、令和8年には3,000個予定。農家5軒と10万円の契約を結び、卸価格の約10倍の高収益を実現。事業4年で売上1億円を突破し急成長中。

◆耕作放棄予定のりんご園を再生し、観光体験と連動させる新商品開発に成功。近隣30軒以上の農家と安定的に取引し、地域農家の所得向上に寄与。地域観光事業者や自治体とも連携し、青森県のブランド力向上と観光客誘致に貢献。

お問合せ先

東北農政局 農村振興部 農村計画課

(TEL) 022-263-1111 (内線4125)

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-3-1(仙台合同庁舎A棟)

「ディスカバー農山漁村の宝アワード」ホームページ

[URL] <https://www.discovermuranotakara.com/>